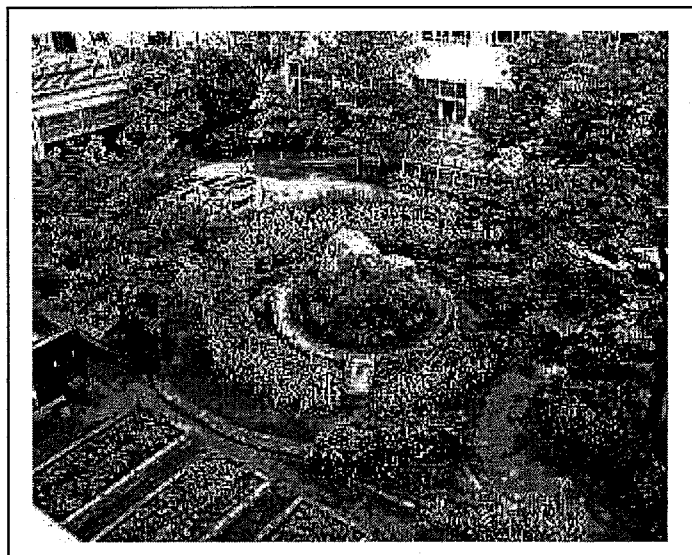


平成16年度広島県道徳教育研究協議会
(全体報告会)

発表資料

テーマ

「生命を尊重する心を育てる道徳教育」



広島市立安西小学校

平成 16 年度研究推進計画

1. 研究の背景と目的

(1) 地域・児童の実態と社会的背景

本校は、広島市の中心から車で北に 30 分ほどの団地の中にあり、新興住宅地から通学している児童が多い。核家族の家庭や共働きの家庭が多く、時間に追われる生活をし、子どもたちとじっくり向き合うゆとりが持ちにくい保護者も増えてきた。しかし、忙しい中でも、授業参観や PTC 活動などには、多くの保護者が参加し児童を見守っている。

本校の児童は、明るく人なつっこい子どもが多く、全体的に素直な面を持ち合わせている。登校時には、職員や友だちとあいさつを交わす声が響き、廊下などですれ違う際にも、気軽に声をかけてくる。平成 15 年度まで、相手に伝わるように話す・聞く力に重点をおいた指導をしてきた結果、以前に比べると自分の思いや考えを話す力が少しずつ育ってきている。一方で、「早寝早起きをする」、「朝食を食べる」、「排便をして登校する」、「学習の支度を整える」などの生活習慣が確立していない子どもが少なくない。してよいこと・してはいけないことなどの善悪の判断力がつかないまま入学してくる児童も年々増えている。

近年、いじめ、少年犯罪、自殺、親による子ども虐待など生命に関わる深刻な社会問題が次々と起きている。そうした事件がおきる度に、「かけがえのない生命」を学校でも新聞やテレビでも何とか伝えようとしている。アンケート調査を見ると、生命は大切なものであるということは分かっていることが読み取れる。しかし、言葉の上ではとらえているが、実情では十分ではない。

子どもたちは、長時間テレビやコンピュータゲームに夢中になっている。それらの中では、暴力や死の場面がまるで日常の出来事のように扱われたり、リセットすれば簡単に生き返ることができたりする。そのため、仮想の世界と現実との区別があいまいになることを危惧する。また、心豊かな生活をだれもが望むが、ゆとりのない生活であることも多く、親子が十分かわりあう時間が不足している。そのため、ストレスをためたり、心のよりどころが希薄であったりする。

(2) 研究目的

前述した実態を受けて、次のように研究の主題・副題を設定した。

研究主題

いのちを喜び、いのちを愛おしむ心を育む道德教育

—— ひびきあい、つながる道德の時間を通して ——

ここでいう「生命を喜ぶ」とは、子どもたちが、自分が生まれてきたことをうれしく思い、生命があることや生かされていることを感謝することである。また、「生命を愛おしむ」とは、自他の生命や生命あるものすべてを大切なものと考え、感謝と思いやりの気持ちを持ち、さらに、深く自己をみつめながらよりよく生きようとするのだと考える。

本研究では、次の3点について明らかにすることを研究の目的とする。

- (i) 生命を喜び、生命を愛おしむ心を育む道德教育にするために、どのような資料（資料の開発を含めて）をどのように提示すればよいか。
- (ii) 生命を喜び、生命を愛おしむ心を育む道德教育にするために、体験活動をどのように生かせばよいか。
- (iii) 生命を喜び、生命を愛おしむ心を育む道德教育にするために、学校と家庭・地域はどのようにつながりをもてばよいか。

2. 研究の内容（具体的方策）

〈ひびきあう〉

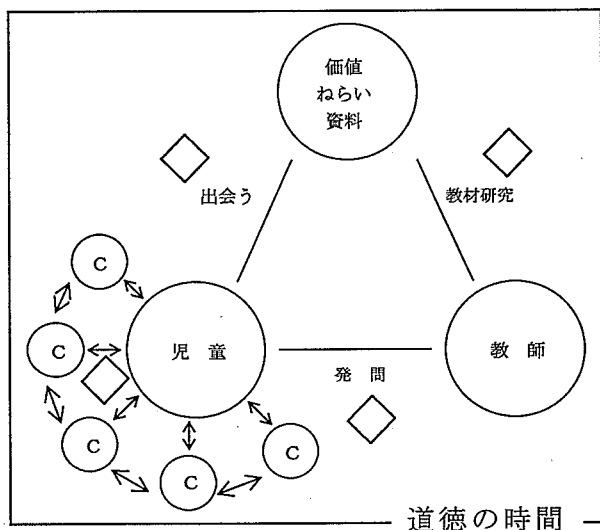


図1 授業の中にあるひびきあいの関係

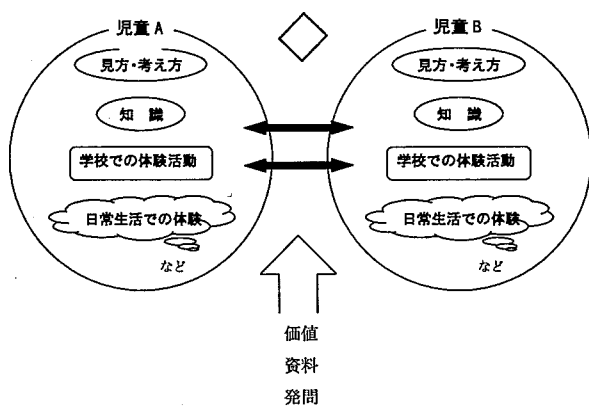


図2 「道德の時間」における児童間のひびきあい

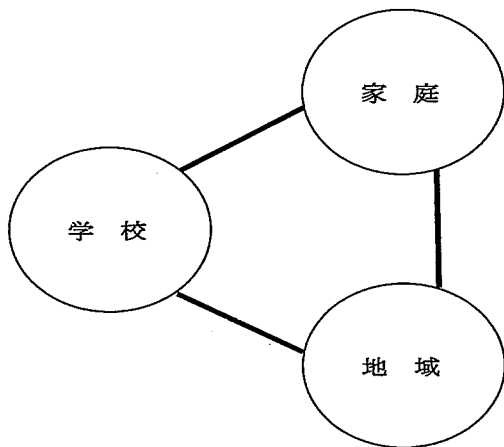
道德の時間に「ひびきあう」とは、資料や発問などによって、児童一人ひとりが自分を見つめたり、交流を通してお互いが自分を見つめ直したりして、道德的価値の自覚を深めることである。

◇道德の時間に児童は、資料に出会う。資料を通して自分を見つめる。登場人物の気持ちを考えながら、これまでの体験を思い出したり、自分ならどうするだろうかと考えたりして、自分自身をも振り返る。よりよい授業のためには、よりよい資料に出会うことが大切である。

◇また、児童は、道德の時間に自分の考えを出し合う。その時、友だちの考えと交流し、さらに深く自分を見つめ直す。自分一人ではたどり着けないような深い思考ができる。そのために、「聞く力」「話す力」をつけ、しっかり思いを伝え合わせる場を作る。

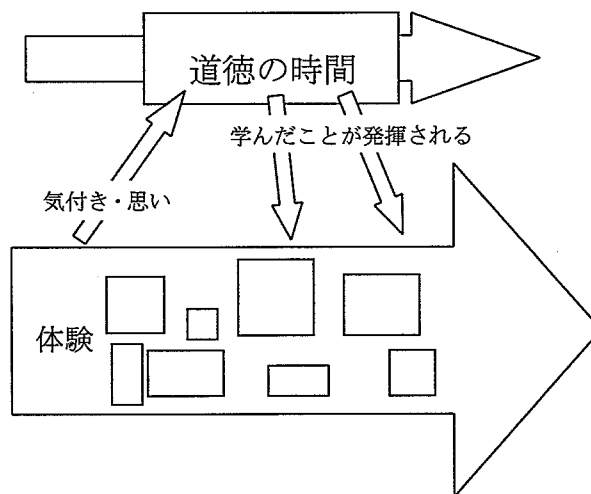
◇道德の時間には、教師自身が感動した資料を使い、児童に獲得させたい価値に迫るための発問をする。児童は、自己を見つめ考える。考えたことを発表する。発せられる児童の反応を、教師も共感的に受けとめながら聞く。このとき、児童は教師と共に価値の把握に向かっている。それらをより確かなものにするために、教師は価値の研究をし、発問や展開の工夫など教材研究をする

〈つながる〉



以上のような、意識の流れを作るために、体験活動を計画的に行い、学校が家庭・地域と「つながる」取り組みを行う。

図3 学校と家庭・地域がつながる関係



道徳の時間に自分を見つめるときには、総合的な学習の時間・生活科・理科などの時間に行う体験活動や日常の体験で、感じたり考えたりしたことを想起しながら学習を進めていく。また、道徳の時間に学習したことは、即学習効果とはならないとしても、体験活動や日常の中でふとつながりを感じたときに自然に生かされる。子どもにとっての道徳的体験の場は、学校だけでなく、家庭・地域にも存在する。

図4 道徳の時間と体験や体験活動の関係

〈ひびきあい・つながる〉

ひびきあう道徳の時間にすることにより、児童は道徳的価値を深く受けとめる。受けとめた価値が自らの体験や体験活動と関連づけられ、ひびきあうことにより、児童はなんとなく大切だと感じていた価値を実感として受けとめる。このような、それぞれの内にある体験や体験活動は、学校や家庭や地域に存在し、それぞれがつながっていく。

このように、「ひびきあい、つながる道徳の時間」を通して把握された道徳的価値は、児童の生活で生きてはたらく力になる。

具体的な取り組み

1 年間指導計画

道徳の時間を充実させるために、1年間、実践とその反省を元に道徳の年間指導計画を練り直すことに取り組む。

学年毎に年度当初、児童の実態に合った資料選びをして、年間行事や心のノートとの関連を図った年間指導計画を立てた。授業後に、資料選びについて反省を行い、次年度に生かす。また、学期毎に以後の計画の見直しを行ってきた。

2 生命尊重のねらいについて

道徳に関するアンケートの結果から、全学年の道徳の重点目標を生命尊重に設定し、道徳の年間指導計画にも全学年年間3時間の生命尊重を主題とする授業を計画する。しかし、「生命尊重」について分析してみると、多くの構成要素を含んでいる。また、「生命尊重」は、道徳的価値の根源ともいえるものであるから、その価値を十分実感させるためには、さまざまな工夫が必要になる。その他の関連項目の指導する際に、教師は生命尊重との関連を意識した指導を行うのもその一つである。

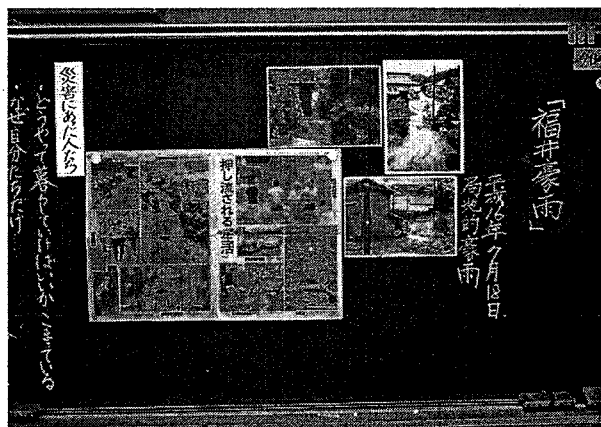
参照 別表 P11 (各学年の生命尊重のねらい・構成要素・関連項目)

3 道徳の時間の指導の工夫

(1) 資料について

資料は、児童の心に響くものであることはいまでもなく、教師自身の心に強く響くものを選択してきた。また、ねらいを達成するのにふさわしいものを重要視した。反面、時代や児童の実態からは離れているが、人間にとって普遍的な価値が内在されているものも大切に扱った。また、児童が多様な意見を出すことができるということも大切に考えてきた。

既成の資料では、ねらいとする価値が十分達成できないと判断した場合、資料の改作をしたり、自作資料を作成したりする。自作資料の良い点は、教師自身が心から感動した事柄を扱っており、児童に伝えたい価値を十分に含むものであるということである。教師の感動は資料を通して自然に児童に伝わるのである。資料を作成する場合、ねらいとする価値がその資料を一貫するように注意した。



「心のノート」は、個人に持たせている。道徳の時間の導入や終末で活用したり、朝の会や帰りの会で書き込ませたりしている。また、自分の心に強く残ったことがあったときに随時書き込ませている。

(2) 指導過程にかかわること

① 導入の工夫

短い時間で、児童が本時の学習に興味を持つことができるようにするために、本時の内容によって、機能的導入と内容的導入を使い分ける。

【写真、一枚絵、映像、事前のアンケートの活用、経験を問うなど】

② 展開の工夫

展開の工夫にはさまざまな要素があるが、その中で、価値の把握のために重要と考える工夫として、効果的な発問と板書の工夫について触れる。

ア 効果的な発問

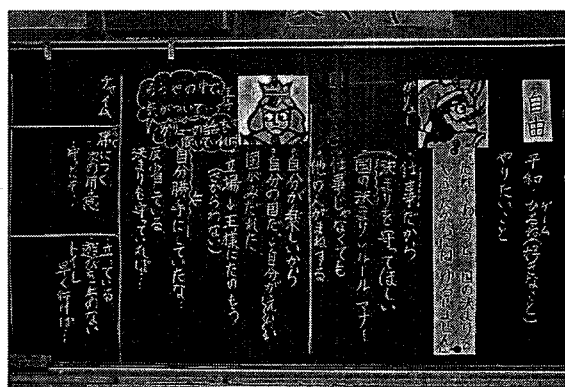
発問を考える手順は、まず資料を読み込んで資料の分析をする。そうすることで、資料の山場がどこになるのかをつかみ、中心発問を決定する。次に、中心発問に迫るための基本発問を考える。発問が多くなりすぎて、学習の展開が一問一答式にならないように気をつける。何のために発問するかを考えておく必要がある。

また、発問が決まったら児童の反応を予想しておく。児童の反応を類型化しておく。

全体研修の授業のときは授業記録をとり、協議会で授業記録を確認しながら教師の発問の良さや改善点などを協議した。

イ 板書

児童の発言から多様な感じ方・考え方を見て、ふり返り、整理していく場面で、有効的に使えるようにすることが大切である。そのために、発言の中のキーワードを板書する、カードに書いて準備しておく、それらの考えを類型化して視覚的に分かりやすく板書する、などの工夫を行った。



③ 終末の工夫

教師の説話を中心とする。その他、映像、詩、児童の作文、新聞記事、歌を歌う、手紙を読むことなどを取り入れる。

これらを通して、価値について考えながら余韻を残して終わることができるように工夫した。

どのような方法にも、それぞれによさがある。それを効果的に用いたり、マンネリ化しないようにしたりした。

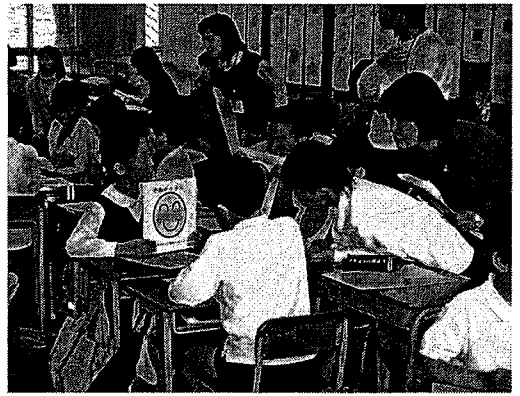


(3) 表現活動に関すること

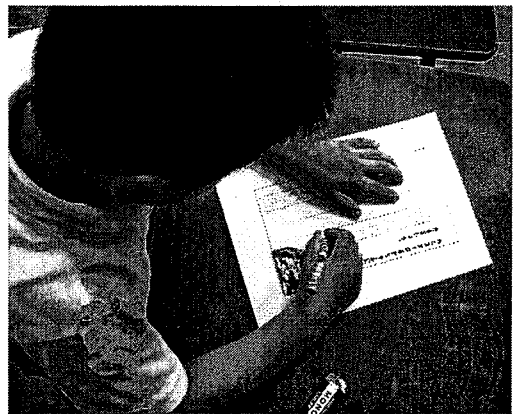
道徳の授業の目的は、道徳的価値の自覚を深めることであるから、自分ひとりでは気付かなかつた多様な感じ方や考え方を、児童が互いに語り合うことによって気付く話し合い活動を大切にする。さらに、場合に応じて次のような手法を用いた。

① 動作化 登場人物の心情に寄り添い共感するために、行為をまねてそのときの気持ちを表現する方法。

- ② 役割演技 登場人物の心情に深く共感し、自分のこととして考えるために、資料に即した問題場面で即興的に演技をする方法。役割を交替して行うことで、自他の感情を、実感を持って理解することができた。



- ③ 書く より深く自分の心を見つめるために、自分の考えを文章で表現する方法。書いたものを読みかえすことで自分の心と向き合うことができた。また、書いたものをファイルしていくことで、いつでも振り返ったり、思い出したりすることができた。



4 家庭、地域との連携

道徳の参観授業を行い、その後の懇談会で話題にしていた。また、「心のノート」に保護者の返事を記入してもらったり、保護者を書いてもらった手紙を授業の中に組み入れたりした。

学校だより、学年だよりなどで、道徳の授業の様子、道徳に関する話題などがあれば、その都度載せるようにしている。

学校としての「子育て三原則」を考え、理解を求めた。

5 アンケート

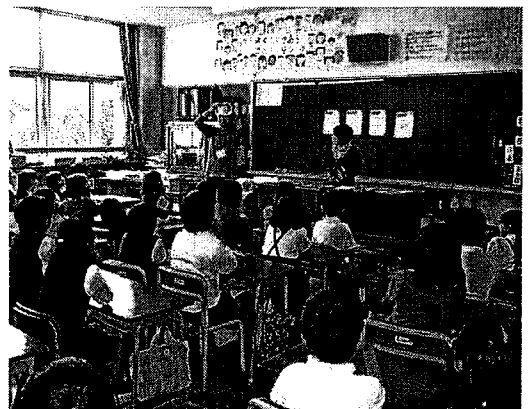
児童の実態・特に指導したい項目についてのアンケートを、保護者、児童、教職員に実施し、その結果や願いをもとに、前年までの道徳教育全体計画を見直していった。

生命についてのアンケートを、1学期に全児童に実施し、生命についての思いや自尊感情、自分がどう生きたいか、などの考察結果をもとに、学年・クラスの傾向や実態を授業づくりに反映させた。学年末にもう一度実施し、児童の変容を見ていくことにしている。

6 心を通わす学習規律

「聞くこと」「話すこと」については、心を開いて語り、全員よく聞き合う授業づくりを目指して全校で取り組んでいる。「聞くこと」に関しては、聞き方の基本を身につけることからはじめ、相手の立場や意見を尊重して聞くことを目指して取り組んでいる。「話すこと」に関しては、話し方の基本を身につけることからはじめ、心を伝え合うような発言ができることを目指して取り組んでいる。

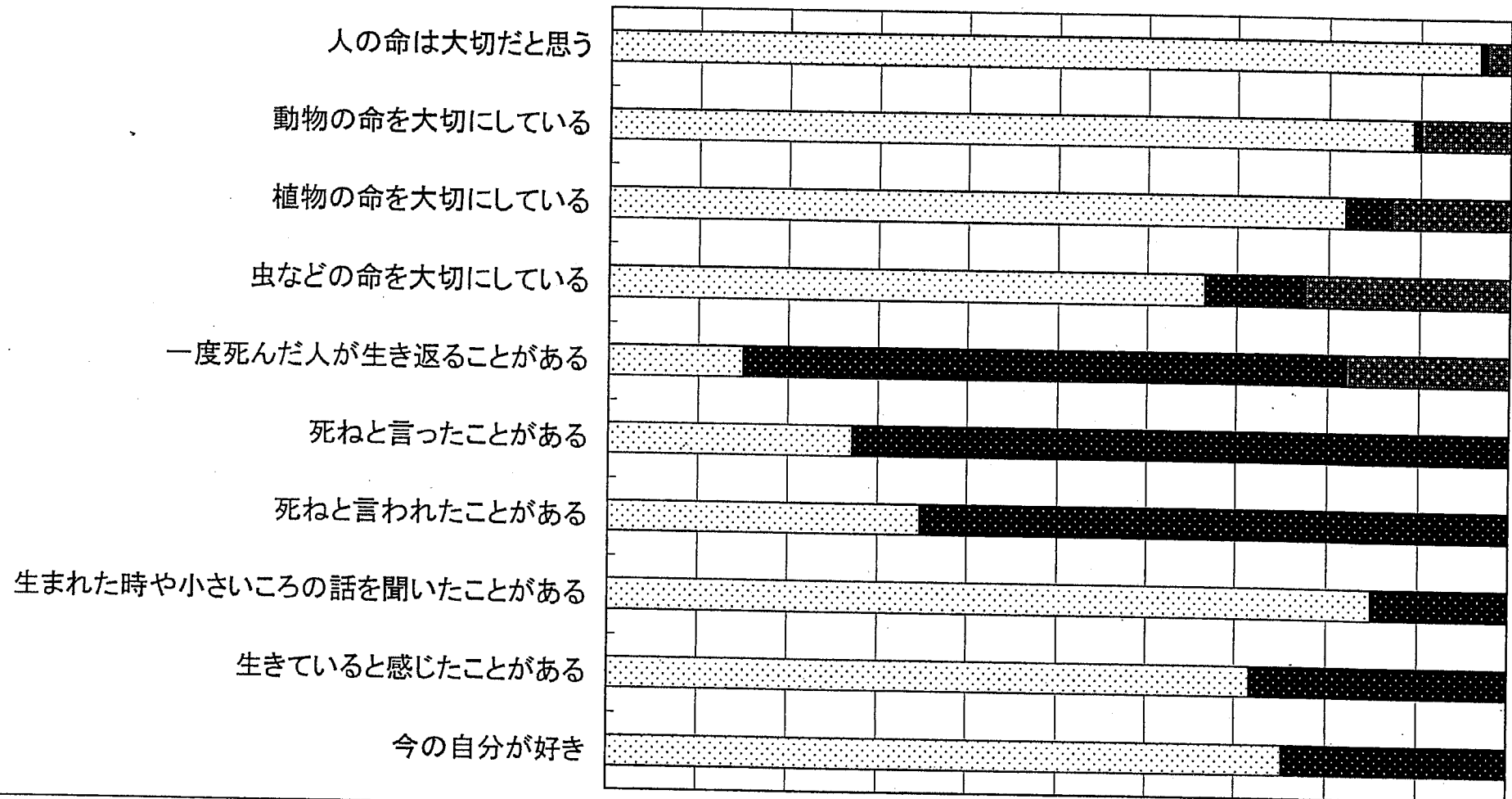
これらの規律を支えるものは、児童相互の、また教師との思いやりのある信頼関係である。これがあってこそ学習規律ははじめて生きたものとなり、児童が関わり合い、主体的に学ぶことができるものになる。



命にかかわるアンケート(全学年)

□ はい ■ いいえ ■ わからない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



各学年の生命尊重のねらい・構成要素・関連項目

学 年	本年度の生命尊重のねらい	構成要素図表(生命)	関連項目
1 学 年	○ 生命の躍動感・生命の力を感じさせ、生命を大切にしようとする心構えを育てる。 ○ 家族に見守られて育てられ成長することに気づき、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。 ○ 日常の喜びから生きていることを実感させ、生命の大切さを自覚させる。	元気 食べる 遊ぶ 友だち 誕生 温もり 赤ちゃん 母 父 生命 動物全てに 一つだけ かわいがる	1・(1)節度ある生活態度 2・(1)礼儀 2・(2)思いやり・親切 2・(3)信頼・友情 3・(1)自然愛・動植物愛護 4・(2)家庭愛
2 学 年	○ 生き物に優しく接し、生命を大切にしようとする心情を育てる。 ○ 生命の尊さに気づき、大切にしようとする心情を育てる。 ○ 生命の大切さに気づき、かけがえのない命を大切にしようとする気持ちをもつ。	喜び 幸せ 家族 育てる 死	
3 学 年	○ 生命の尊さを感じとり、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。 ○ 自分の命の尊さに気づき、他の人の命も同じように大切にしようとする心情を育てる。 ○ 自分の命は家族に支えられていること・家族から喜ばれて生まれてきたことを知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。	思いやり 出産 一つしかない かけがえがない 生きる 古い 宝物 力	1・(5)正直誠実・明朗 2・(2)思いやり・親切 2・(3)信頼・友情 2・(4)尊敬・感謝 3・(1)自然愛・動植物愛護 3・(3)敬けん 4・(3)家庭愛
4 学 年	○ 生き物の生命の尊さを感じ取り、大切にしようとする心情を育てる。 ○ 人間の生命の重さを感じ取り、大切にしようとする心情を育てる。 ○ 生命が誕生することは、多くの人にとって喜びであり、さらに成長する上でたくさんのかけがえのない支えを受けていることを理解させるとともに感謝の心情を育てる。	感謝 悲しみ 大切 限りがある	
5 学 年	○ 生命の尊さを理解し、生命を大切に力強く生きようとする態度を育てる。 ○ 生きることの喜びを知り、自他の生命を尊重し、力強く生きぬこうとする心情を育てる。 ○ 生命のかけがえのなさを知り、進んで自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。	喜怒哀楽 つらい 励まし 心 愛情 愛 尊敬 輝き 希望 夢 根底 親 子ども 先祖 神 神秘 与えられる 犠牲 美しい はかない 地球 自然 宇宙 始まり終わり 共有 尊い つながり 時間 継続 永遠	1・(2)希望・勇気・不とう不屈 1・(4)誠実・明朗 2・(2)思いやり・親切 2・(5)尊敬・感謝 3・(1)自然愛・環境保全 3・(3)敬けん 4・(5)家庭愛
6 学 年	○ 生きとし生けるものを慈しみ、かけがえのない生命を大切にしようとする態度を養う。 ○ 人間の生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする態度を養う。 ○ 生命のかけがえのなさを自覚するとともに、人間の誕生の喜びや死の重さについて知り、よりよく生きようとする心情を育てる。	根底 畏 敬	

第3学年 道徳学習指導案

指導者 古本 智美

1. 日時 平成17年2月2日(水)
2. 学年 第3学年2組 35名
3. 主題名 家族に支えられている命 [3-(2) 生命尊重] 関連項目 [4-(3) 家族愛]
4. 資料名 「先生のかなみだ」(出典 いっしょに読もう いっしょに話そう くすのきしげのり著 小学館)
5. ねらい ○ 生命の大切さに気づき、生命をそまつにするような言葉を使ってはいけないことを理解させる。(分かる)
○ 自分の生命は家族に支えられて生きていることを知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。(見つめ直す)

6. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

「命は大切である」ということは、どの子も感じていることである。しかし物が豊かになった現代、「生きること」について差し迫って考える機会が少なくなっている。例えば、バーチャルなゲームやテレビ番組などの情報が氾濫し、自分の生命について真剣に考えることができにくくなっている。また、核家族化、両親共働きなどのためにふれ合う時間が少なく、家族からの愛情になかなか気づくことができない子どもたちもいる。このような現代社会の状況の中で、生命の大切さについて考えるとき、まず、「自分の生命はどれだけ周りの人たちに支えられているのか」ということを実感することは大切であると考え。その上で自己肯定感を育むとき、他者の生命をも肯定し、大切にできると考える。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、明るく素直である。課題に対して意欲的に取り組み、最後まで頑張ろうとする粘り強さも見える。友だちに対しても、やさしく接することができる。生き物や植物の好きな児童が多く、最後まで責任をもって育てることができる。

しかし、「生命に関するアンケート」で「1学期の間に『死ね』と言ったり言われたりしたことがありますか」という項目に対し、33名中、17名がいずれかに「ある」と答えた。「ある」と答えた児童の多くは「ケンカのときに言った(言われた)」と答えている。「人の命は大切だと思う」と全員が答えているのにもかかわらず、日常的に「死ね」という言葉が使われてしまうようである。

(3) 指導について

本資料は、「先生のかなみだ」というある学級で起きた生命に関する話である。ある日、ユウタとタケシがドッジボールのいさかいからお互い「死ね」と言い合うけんかをする。それを聞いた担任の杉田先生が涙を流し、自分の流産の経験を話しながらこれから産まれてくる命と子どもたちをここまで育てることの大変さを語る。その杉田先生の熱いメッセージにユウタたちも心を打たれ、命の大切さを実感するという話である。

自分が生まれたときから今まで、家族だけでなくたくさんの方が自分の健康と幸せを願い、自分を見守り続けていることや、これからも多くの人たちが私たちの成長を見守ってくれていることを資料を通して実感させたい。

7. 指導計画 生命尊重 3-(2)

- | | | |
|-----|-----|---|
| 第一次 | 7月 | いのちあるものを大切に 「目の見えない犬」
生命の尊さを感じとり、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。 |
| 第二次 | 12月 | 赤ちゃんがうまれるまで 「おばちゃん、がんばれ」
自分の生命の尊さに気づき、自分の生命を大切にしていこうとする心情を育てる。 |
| 第三次 | 2月 | 家族に支えられている生命 「先生のかなみだ」(本時)
自分の生命の尊さを実感し、自他の生命を大切にしようとする心情を |

育てる。

8. 学習展開

段階	主な学習活動	主な発問 (○) と中心発問 (◎) と 予想される児童の心の動き (・)	支援 (・) と評価 (★)
導入	1 3年2組の「生命に関するアンケートの結果(一部)を知る。	○これは1学期の終わりにみなさんが書いた命についてのアンケート結果です。 ・命が大切なのはあたり前だ。 ・ぼくも友だちに「死ね」と言ったことがあるな。 ・けんかしたときに「死ね」って言い合ったことがあるかもしれない。	・アンケートの結果から自分は生命についてどう考えているか想起させる。
展開	前段	2 「先生のなみだ」を読み、話し合う。 ○ユウタはどんな気持ちで「死ね」とタケシに言ったのでしょうか。 ・腹が立ってしょうがない。 ・線から出てないのに「出た」としつつこく言うなよ。 ・本当は「死ね」とは思っていないけど、どうして自分ばかり責められるのか。 ○ユウタたちが「死ね」と言ったとき、先生は涙を流しましたね。そのとき、先生はどんな気持ちで涙を流したのでしょうか。 ・(自分の死んでしまった子どものことを思い出して) つらい気持ち。 ・ユウタたちに命を大切にしてほしい。 ・「死ね」という言葉を使ってほしくない。 ◎先生のお話を聞いてユウタはどう思ったでしょう。ワークシートに書きましょう。 ・もうけんかしても「死ね」なんて言わない。 ・先生もつらい思いをしたんだ。 ・先生を泣かせるようなことはもうしてないけない。 ・家族から自分の命は守られているんだから大切にしないといけない。	・けんかをしたときに「死ね」と言ったり言われたりしたことがないか想起させ、考えられるようにする。 ・先生の涙を流したときの気持ちから「死ね」という言葉がどれだけ残酷なのかを理解できるようにする。 ・「一人ひとり大切な命」「ここまで大きくなるのは大変なこと」という先生の言葉から、ユウタがどんなことを感じたかを考えさせる。 ★先生のお話から、命の大切さに気づき、命をそまつにしてはいけないことを理解できているか。
	後段	3 自分が家族から生命を守られていることを知る。 ○家族から自分の命は守られている、大切にされていると感じたことはありませんか。それはどんなときですか。	・家族からどう思われているかを想起しやすくするため、以前家族に書いてもらった心のノートをもとめたものを提示する。
	終末	4 教師の説話を聞く。 ○家族だけでなく担任の私もあなたたちの命を守っているという話をする。	

第6学年 道徳学習指導案

指導者 高田 千鶴子

1. 日時 平成17年2月2日(水)
2. 学年 第6学年2組 36名
3. 主題名 生きることのすばらしさ [3-(2) 生命尊重]
4. 資料名 「お母さんへの手紙」 (出典 6年 道徳 東京書籍)
5. ねらい
 - 生きている喜びや死の重さ、家族の愛情について考えさせることにより、生命がかけがえのないものであることを自覚させる。(分かる)
 - 母親に感謝をし、力強く生きようとする佐江子の姿から、自分はどんな気持ちで日々生きているのかを考えさせる。(見つめる)
 - 故谷本正文先生のご両親の話を聞かせることにより、自分の生命を心から大切に思い、よりよく生きようとする態度を養う。(見つめ直す)

6. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人間尊重の基盤は生命の尊重であり、生命はかけがえのないものであると認識することは非常に大切なことである。自他の生命を尊重するとともに、多くの人に支えられて生きているということへの感謝の念を持たせていく必要がある。また、生きることの喜びや辛さを感じ得させながら、生命あるものは必ず死があるという重さについても理解させていかなければならない。

そして、卒業を前にしたこの時期に、今まで生きてきた自分を振り返り、自他の生命の尊さについて考えることは、児童にとって非常に価値があることだと思う。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、言葉では命はかけがえのないものであることはよく分かっている。しかし、自分の身近な生活の中で生や死に直面した経験のある児童は非常に少ない。豊かな生活の中で育った児童の多くは、苦しみの中から生きる喜びをつかんだり、たくましく生き抜いていくといった経験が少ない。また、死んだ後には何かに生まれ変わると考えている児童が数名いる。児童が「生きている」と感じたのは、「事故に遭いそうになったとき」「親戚の人が亡くなったとき」「生まれた時の話を聞いたとき」「ご飯が食べられて、お風呂に入って、みんなとゆっくり話して、ゆっくり寝るとき」などである。しかし、中には「生」の意識をしたことがない児童もいる。

学校生活の中では、一週間に一度の飼育当番活動で、動物たちとふれ合うことを楽しんでいる。

(3) 指導について

本資料は、重い心臓病の手術を前にした佐江子が、母に書いた手紙である。育ててくれたことへの感謝が、小さいころの思い出から始まって、現在の気持ちまでつづられている。そこには、自分の命を精一杯生きてきた佐江子の心の動きと、母への感謝と励ましの言葉となって表れている。

思い心臓病で亡くなった佐江子が、死の不安とたたかいながらも明るくたくましく生きようとする姿に、児童は心を動かされるであろう。本資料を通して、生きることの意義や死の重さについて深く考えさせていきたい。

また、終末では本校教諭であった故谷本正文先生のご両親から寄せられた手紙を児童に紹介する。手紙には、谷本正文先生が生まれたときのご両親の喜びから亡くなられるまでの心情、そして、本校児童へのメッセージがつづられている。

この手紙を紹介することによって、生きること死ぬことをより身近なものとしてとらえさせ、よりよく生きたいという心情を育てたい。

7. 指導計画 生命尊重 3-(2)

- | | | | |
|-----|-----|--|-----------------|
| 第一次 | 7月 | 命の尊さ | 「ラッシュアワーの惨劇」 |
| | | 生きとし生けるものを慈しみ、かけがえのない生命を大切にしようとする態度を養う。 | |
| 第二次 | 11月 | 生きて還る | 「きせきの生かんのかげに」 |
| | | 人間の生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする態度を養う。 | |
| 第三次 | 2月 | 生きていることのすばらしさ | 「お母さんへの手紙」 (本時) |

生命のかけがえのなさを自覚するとともに、人間の誕生の喜びや死の重さについて知り、よりよく生きようとする心情を育てる。

8. 学習展開

段階	主な学習活動	主な発問(○), 中心発問(◎)と予想される児童の心の動き(・)	支援(・)と評価(★)
導入	1 自分が生まれたときの父・母の話を発表する。	○自分が生まれたときに、お父さんやお母さんは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・とても嬉しかった。 ・かわいいと思った。	・事前に聞き取り調査をさせておく。 ・自分の生命が、自分だけのものではないことをつかませる。
展開	2 「お母さんへの手紙」を読んで話し合う。 ①お母さんへ手紙を書いた佐江子さんの心情を考える。	○佐江子さんは、どうしてお母さんへ手紙を書いたのでしょうか。 ・お母さんへの感謝の気持ちを伝えるため。 ・お母さんを励ましたかったから。	・母への感謝の気持ちだけでは、ないことに気づかせるようにする。
	②お母さんに黙って手を握ってもらった佐江子さんの心情を考える。	○つらくて涙がとまらないときに、お母さんに黙って手を握ってもらった佐江子さんは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・おかあさんありがとう。 ・お母さんの手は、とてもあたたかいな。	・佐江子さんは、どんなことがつらくて涙がとまらないのかを考えさせる。
	③佐江子は、手術に対して、どんな気持ちでいたのか考える。	○佐江子さんは15時間くらいかかる手術に対して、どんな気持ちでいたのでしょうか。 ・必ず健康な体になる。 ・とても不安だ。	・佐江子の心情を、共感的に理解させるようにする。
展開	④「手術がんばろうね。」と書いた佐江子さんの気持ちを考える。	◎佐江子さんが「手術がんばろうね。」と書いたのは、どんな気持ちからでしょうか。 ・自分だけが苦しいのではないのだから、お母さんと一緒にがんばろう。 ・お母さんと一緒だから私もがんばれるという気持ち。	・母と一緒にだからこそ、力強く生きようとする佐江子の強さについて考えさせるようにする。
	3 今までの自分を振り返り、これからの生き方を考える。	○あなたは、今まで精一杯生きてきましたか。そして、これからどのような気持ちで生きていこうと思いますか。	★自分の生命を心から大切に思い、よりよく生きようと思うことができたか。 (見つめ直す)
終末	4 故谷本正文先生のご両親からのメッセージを聞く。	・自分の生命は自分だけのものではないのだな。 ・自分の生命を大切にしなければならぬ。 ・もっと一生懸命に生きたい。	・手紙を紹介する前に、故谷本正文先生がかつて本校教諭であったことなどを説明する。